

受賞の報告

〈第9回繁田正子賞報告〉

長年にわたり喫煙防止教育や後進の育成に情熱を捧げられた(故)繁田正子先生の遺徳を偲び、次世代を担う若者によるタバココントロール研究・調査および活動を奨励する目的で、2017年5月に日本禁煙学会繁田正子賞(Shigeta Masako Young Investigator Award; SMYIA)が設立されました。第19回学術総会(大宮大会)は、11月29日と30日に現地開催され、第9回繁田正子賞セッションは、11月29日14:40~16:00(座長:田淵貴大、瀬在泉)に9演題の発表があり、活発な質疑応答が行われました。審査委員で協議の結果、最優秀賞1名、優秀賞2名に下記の3名が選ばれ、29日の会員懇親会で尾崎哲則審査委員長より審査結果が発表され、山本蒔子理事長から表彰されました。

◎最優秀賞

木葉郁美氏(熊本機能病院 地域包括医療病棟)

「9コマ漫画×禁煙支援-委員会活動から生まれた院内資材の開発と活用-」

◎優秀賞(二席)

赤羽朋博氏(東京女子医科大学 呼吸器内科)

「分割時系列解析を用いたバレニクリン出荷停止が禁煙外来受診に与える影響についての検討」

◎優秀賞(三席)

津野慧戸氏(筑波大学 医学群 看護学類)

「日本における水タバコ(シーシャ)使用の動向: JASTIS 2021-2025」

繁田正子賞も9回目になりました。昨年までは応募件数が減少傾向でしたが、今回は9件と多数の応募があり、とても喜ばしい流れになりました。次回の第10回が最後になる予定ですが、最後までしっかりとその役割を果たしていこうと思います。

〈第10回日本禁煙学会雑誌優秀論文賞〉

今年度投稿された該当論文は2編のため、次年度と併せて選考となりました。